

安全で快適な通行空間を確保・道路の防災性の向上！ (国道432号 古志原工区完成)

国道432号は、広島県竹原市を起点とし、奥出雲町、安来市広瀬町を經由し、松江市に至る路線であり、山陰と山陽を結ぶ重要な路線であるとともに、地域住民の日常を支える道路です。

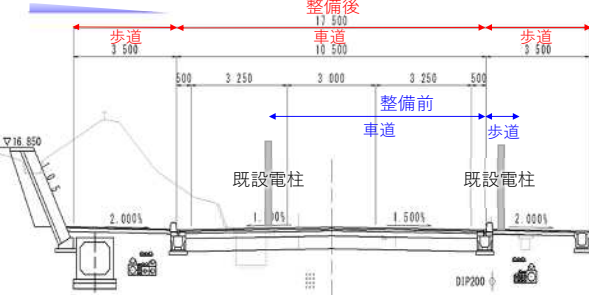
国道432号は、車両の通行が1日あたり12,000台程度にまで達しており、朝・夕に渋滞が発生している状況に加え、歩道が狭隘であるため、歩行者や自転車の通行に支障となっていました。

このため、平成23年度より古志原工区として道路改良事業に着手し、自転車歩行者道の整備と併せて電線共同溝の整備を行っていましたが、令和5年11月に全線供用しました！

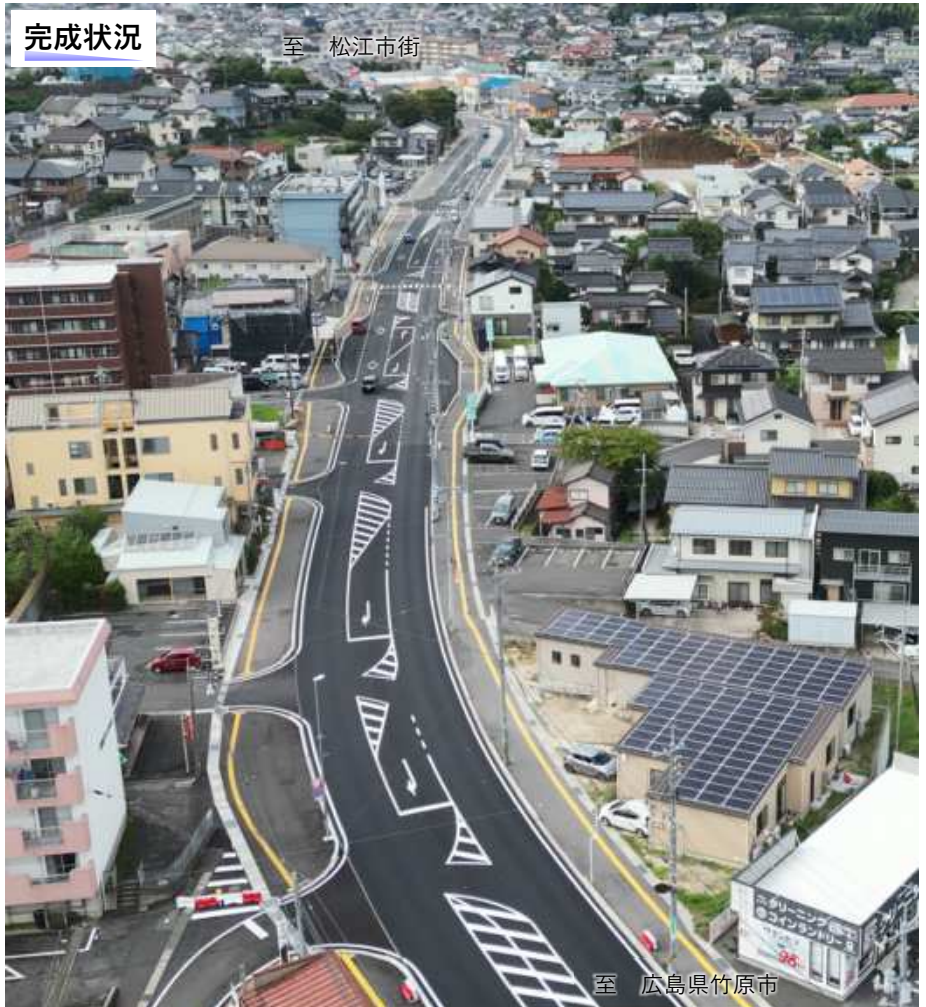
位置図



標準断面図



完成状況



電線共同溝とは？

「電線共同溝」とは、電線の設置及び管理を行う2以上の者の電線を收容するため、道路管理者が道路の地下に設ける施設であり、道路上にある電柱や電力線、通信線を地下に收容することにより、快適な歩行空間の確保、景観の向上を図ることを目的としています。

Before: 歩道が狭隘で危険

- 近隣に学校や幼稚園が立地し、歩行者、自転車交通量が多いが、歩道が狭隘で危険な状況
- 緊急輸送道路に指定されており、電柱倒壊による道路閉塞の防止が必要



After: 安全・安心な道へ

- 電線共同溝の整備により、通学する児童・生徒の安全と共に誰もが安全で利用しやすいバリアフリーの歩行空間を形成
- 災害時に電柱倒壊を防ぎ、緊急輸送道路の通行機能を確保



※歩道内の電柱は今後抜柱予定